

2

特集 美容皮膚科と漢方

統合医療としての漢方医学の形

安井廣迪

安井医院 院長

「日本の漢方医学 (japanese kampo medicine) は、なかから見ると伝統医学 (traditional medicine) であるが、外から見ると統合医療 (integrative medicine) である」(Dr. Heidrun Reissenweber-Hewel)¹⁾。日本は現代医学を基盤とする一元的医療制度を採用しており、漢方医学はこのシステムの下で実践されている。世界には、現代医学とともに補完医学や統合医療を行っている国も多く、その医学の形や医療制度も多岐にわたるが、漢方医学を含む日本の医療システムは、Reissenweber先生の指摘のように、そのなかでも群を抜いて成功している統合医療の例として、世界に誇るべきものである。日常臨床において、漢方薬はさまざまな状況下で、さまざまな疾患に用いられている。筆者は、これを医学的に4種のタイプに分類する試みを行った。現在行われている漢方治療が4種のなかのどのタイプに属するかを知ることは、行っている漢方治療の形を明確化することになり、臨床に有益であると考えたからである。

はじめに

現今の医療現場において、148種類の医療用漢方製剤は、各診療領域において使用されている。それらは、無秩序に使われているかのごとくであるが、日本は現代西洋医学に基づいた一元的医療制度をとっており、そのなかで用いられている漢方医学の持つ力が、近年に至って医学の進歩とともに、ようやく明らかになってきた。そのような目でみると、漢方医学の治療対象となっているものは、以下の4つのタイプに分けられる²⁾。

- タイプ1：漢方治療のほうが西洋医学的標準治療より優れているもの³⁾
- タイプ2：西洋医学的標準治療と漢方治療の併用で効果が増強されるもの⁴⁾
- タイプ3：漢方治療併用によって西洋医学的標準治療の副作用が軽減できるもの⁵⁾
- タイプ4：西洋医学的標準治療が使えない状況にあるが、漢方治療が有効であるもの⁶⁾

これらの4つの分類について、例を挙げながら説明を加える(図1)。

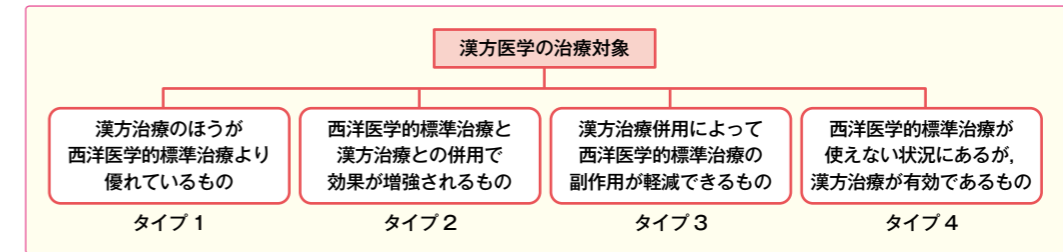


図1 統合医療としての漢方医学の形

タイプ1 (漢方治療のほうが西洋医学的標準治療より優れているもの)

ほとんどすべての疾患には標準治療が存在する。通常の医療はこの標準治療に基づいて行われているが、疾患や病態によっては、標準治療に限界があったり、対症療法的にしか使用できなかつたり、長期服用に適さなかつたりするものもある。漢方薬は多くの生薬を含む複合処方であり、その効果のメカニズムの解明はまだ緒についたばかりであるが、これまでの経験から、漢方薬は、標準治療の及ばない部分に有効である場合や、標準治療よりも優れている場合があることがわかっており、これに関する報告や研究は専門誌に数多く掲載されている。これをタイプ1とする。

ここでは、頭痛の症例を紹介することによってこの問題を考えてみよう。

症例1

患者は30歳代前半の女性。初診はX年5月。主訴は頭痛である。病歴を聞くと、18歳ごろから頭痛が発症し、以後ずっと持続しているとのこと。頭痛は天候が悪化する前に発症することが多く、冬よりも夏のほうが多い。生理との関係はない。発作時に拍動はないが、ひどいと嘔吐する。典型的ではない片頭痛のようである。

この患者に対し、筆者は^{ゴレイサン}五苓散エキス(分3・食前服用)を与えた。すると、最初の2週間分を服用しただけで、びたりと頭痛が止まったので、服用をやめた。しかし、その後も天候悪化の前になると頭痛が起こることがあり、この処方服用するとすぐに治るので、ときどき薬をもらいに来て、起こりそうなきだけ服用するようにしていた。11月以降、頭痛はなく五苓散も服用しなくなった。

その後、X+1年の5月に、久しぶりに頭痛が起こったと言って来院したので五苓散エキスを2週間分処方した。その後、約1年間は来院せず、X+2年の6月に、他の病気で久しぶりに来院した。頭痛はその後ずっと起こらない、と言っていたので、五苓散は処方しなかった。

五苓散を頭痛に使うということは、中国ではあまり行われていない。日本でも近年になって開発された適応症であり、大塚敬節先生によって発見され、矢数道明先生によって一般に周知されるようになり、その後報告が相次いだ。矢数先生の発表の約40年後、灰本元先生らは五苓散が効く頭痛の特徴についての研究を行い、「雨の前日に症状が悪化する」患者は、「しない」患者に比べ、五苓散の有効性が16.3倍(オッズ比が16.3)であるという結果を導き出した⁷⁾。この研究が発表されて以降、多くの追試がなされ、今では、気圧低下に伴って発症する頭痛・片頭痛に五苓散を投与することは一般的になっている。

上記の症例は、その応用である。ここで判明したことは、「五苓散は気圧低下に伴って発症する頭痛や片頭痛に有効であり、これに匹敵する西洋医学的治療はない。また予防的に投与することによって頭痛の発生を防ぐことができる」ということである。これがタイプ1の典型例である。

これに類するものに、認知症のBPSDに^{ヨクカンサン}抑肝散